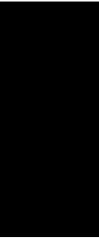


学び合い、豊かな心と文化を創るまち



# 私たちが目指すまち

## 「学び合い、豊かな心と文化を創るまち」

### 1. 趣旨

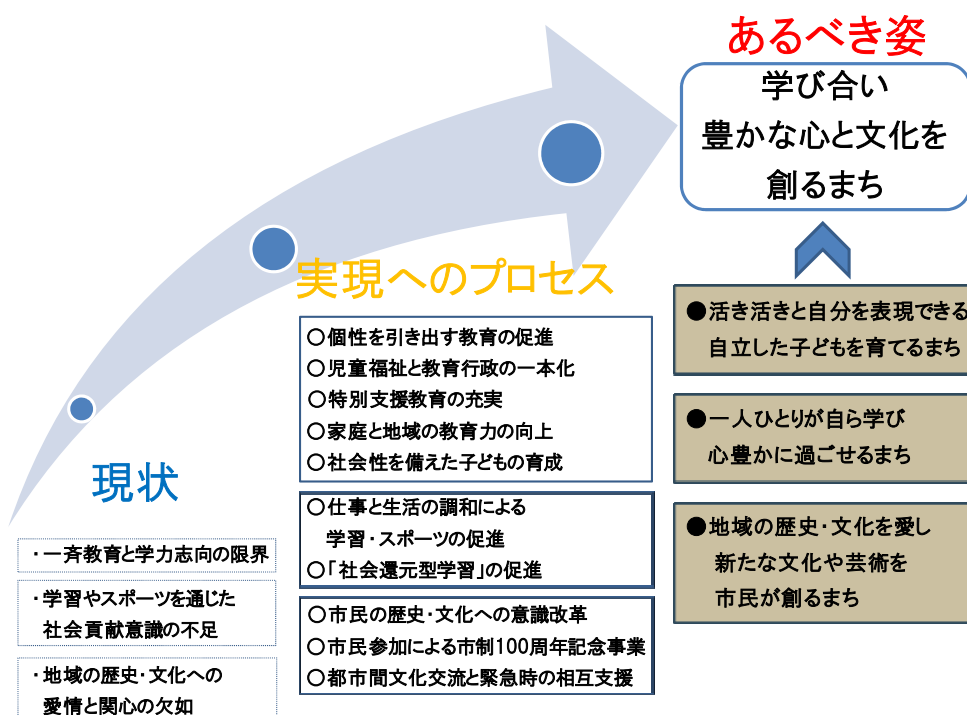
高度経済成長期に想像した 21 世紀といえば、さまざまな美しい形状の高層ビルが立ち並ぶ街の中で、誰もが便利な通信機器を携帯し、排気ガスの出ない自動車が走る、夢のある未来だった。

21 世紀になって 10 年が過ぎた今、それは現実に近いものになった。しかし、「無縁社会」という言葉に象徴されるように、人のつながりはずいぶん希薄になってしまった。このことは、未来を担う子どもたちの育成環境にも影を落としている。子育てに一人きりで悩む親、大人になりきれない親、学力志向の強い親、地域の子どもの顔を知らない大人たち、そして忙しきでストレスを抱える学校の教師……。ゆとりと支え合いの不足したこの環境で、豊かな人づくりができるものだろうか。

こうした流れを変えていくには、まずは大人が夢をもち、「自分らしさ」を求めて生き活きと過ごしていくことが必要ではないだろうか。私たちのまち八王子を愛し、学んだ成果を地域の次世代育成、文化・芸術の伝承と創造などに活かしていく学びの循環を形成し、これをとおして支え合う協働の姿を目指していくことが期待される。仕事に就く人は、仕事と生活の調和のとれたワークライフバランスの観念をもち、現役時代から自身、家族、地域を大切に思うことが必要である。

そして自分たちの地域だけではなく、多方面の都市との文化交流を促進することにより、お互いの地域の活性化のみならず、大災害のときに支援し合える関係の増強など、平成 23 年に経験した大災害からの学びを活かした市民協働のあり方も求められている。

このような思いから、「学び合い、豊かな心と文化を創るまち」を学びや文化・芸術分野において「私たちが目指すまち」の姿として設定し、その実現に向けて解決すべき課題を整理した。



## 2. 現状

### (1) 一斉教育と学力志向の限界

現行のゆめおりプラン以降、高尾山学園の開校、学校選択制や小中一貫教育の開始、地域運営学校の設置など、多様な教育環境が整備された。しかし、学力格差が広がる一方で個人にあった生き方が大切にされる状況を踏まえると、個々の子どもの特性にあった教育を進展させ、一人ひとりの資質を活かして育むことが重要と考えられる。また学力向上に偏らず、地域や社会の課題に関心を向けられる社会性・人間性を備えた大人に育てていく教育の強化も期待されている。

### (2) 学習やスポーツを通じた社会貢献意識の不足

この10年で、市民大学である八王子学園都市大学(いちょう塾)の開校や、戸吹スポーツ公園の開設など、生涯学習・スポーツの骨格づくりは大きく進展した。しかし、これらを活用して学ぶ市民は一部に限られ、その学び方は自己完結型の場合が多い。今後は学びからつながる市民のネットワークにより、学んだ成果を広く市民に還元していく、地域・社会貢献のスタイルが求められる。

### (3) 地域の歴史・文化への愛情と関心の欠如

新市民会館の開設、国際チェロコンクールの開催、夢美術館の活用促進など、八王子の文化・芸術を支える取組みは進展してきている。しかしながら、八王子は市としての一体感に欠け、歴史や文化を共有できていない。市民が積極的に私たちのまち八王子にかかわることが必要である。さらに、東日本大震災を経験した今、姉妹都市である苫小牧市と日光市などとの交流を充実して絆を深めていく取組みは、都市間交流の新たな可能性をそこに見出すことができる。

## 3. あるべき姿

生涯のどの時点でも多くの市民が学び、その成果が次世代育成支援や文化・芸術の伝承と創造に活かされる、「社会還元型」の学びが広く展開されている。この循環によって、一人ひとりが自ら学び、心豊かに過ごせ、生き活きと自分を表現できる自立した子どもが育ち、市民が地域の歴史・文化を愛して新たな文化や芸術を自ら創るまちとなっている。

学び合い、豊かな心と文化を創るまち——10年後の八王子では、卓越した「ひとづくり」への取組みをとおして、「みんなで幸せを紡ぐまち八王子」が実現されている。

## 4. 解決すべき課題

### (1) 生き活きと自分を表現できる

#### 自立した子どもを育てるまち

- ① 個性を引き出す教育の促進
- ② 児童福祉と教育行政の一本化
- ③ 特別支援教育の充実
- ④ 家庭と地域の教育力の向上
- ⑤ 社会性を備えた子どもの育成

### (2) 一人ひとりが自ら学び心豊かに過ごせるまち

- ① 仕事と生活の調和による学習・スポーツの促進
- ② 「社会還元型学習」の促進

### (3) 地域の歴史・文化を愛し新たな文化や芸術を市民が創るまち

- ① 市民の歴史・文化への意識改革
- ② 市民参加による市制100周年記念事業
- ③ 都市間文化交流と緊急時の相互支援

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号 3-1

| 1 提言件名(内容)         |                 | 2 担当分科会   |   | 3 達成時期   |                                  |   |
|--------------------|-----------------|---|---|--|----------------------------------|---|
| 一人ひとりを大切に考える教育     |                 | 教育・学習   |   |  |                                  |   |
| 4 現状               | No              | (1)提案事項   | (2)担い手  | (3)優先度   | (4)目標など                          | (5)提案実現への課題   |
|                    |                 | <p>(1)学年(年齢)ごとの一斉教育がおこなわれているため、個人の発達や特性にあわせた教育の実践が難しい。</p> <p>(2)外国籍の児童・生徒や帰国子女など、日本語での学習および生活に支援が必要と思われる児童・生徒に対し、十分な支援体制がなく、就学手続きをおこなわない不就学児や学力不足などに対応しきれない。</p> <p>(3)学力向上および生活指導対応に加え、児童・生徒の個別特性への配慮と対応が担任に課せられており、十分な対応ができていない。</p> <p>(4)いじめや不登校など、問題行動への対応は主に担任次第であり、適切な早期対応は難しい。</p> | <p>1 <b>18歳までの一貫対応</b><br/>妊娠から18歳までを「個人発達保障期間」ととらえ、保幼小中および児童福祉行政組織の一部を一本化し、一貫した対応を実現する。[課題 ]</p> <p>2 <b>教育指導計画の個別化</b><br/>子ども一人ひとりの個別指導計画を保護者とともに作成し、少人数クラス、少人数学習または習熟度別学習を実現する。[課題 ]</p> <p>3 <b>発展的な学習・補習体制の充実化</b><br/>補充指導教材の充実と支援員の養成により、児童・生徒の学びの状況に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などを指導する。[課題 ]</p> | <p>市・市教育委員会・児童福祉行政</p> <p>市教育委員会・保護者</p> <p>市教育委員会・学校・保護者・地域人材</p> | <p>最優先</p> <p>最優先</p> <p>最優先</p> | <p>平成26年度 検証<br/>平成28年度 導入</p> <p>平成26年度 個別の指導計画の作成、実践</p> <p>平成26年度 全小中学校で放課後補習教室の実施</p> |
| 5 あるべき姿            | 7 課題解決のための具体的提案 | <p>4 <b>外国人・帰国子女への対応の強化</b><br/>外国人・帰国子女などへの就学支援および日本語支援体制の強化と、学習環境の整備を促進する。[課題 ]</p>   | 市教育委員会・学校・保護者・地域人材  | 最優先  | 平成26年度 実施                        | 専門コーディネーターの配置   |
|                    |                 | <p>5 <b>教育支援者の育成促進</b><br/>教育支援ボランティアや、学校サポーターの研修、教育を充実させ、これを増員する。[課題 ]</p>   | 市教育委員会  | 優先   | 平成29年度 全小中学校での実績                 | 関係機関との連携<br>人材育成  |
|                    |                 | <p>6 <b>チームによる指導体制の整備</b><br/>教員がチームをつくって子どもを指導するAT(アシスタントティーチャー)・TT(チームティーチング)・複数担任制を導入する。[課題 ]</p>  | 市教育委員会  | 最優先  | 平成26年度 全小中学校で実施                  | 教員の人数確保<br>ATに関しては、教職を目指す学生の活用  |
| 6 解決すべき課題          | 7               | <p>7 <b>リソースルームの全校配置</b><br/>心の保健室および個別学習室として、リソースルームをすべての小中学校に設置する。[課題 ]</p>   | 市教育委員会・学校   | 最優先  | 平成26年度 全小中学校に設置                  | 予算の確保<br>正しく活用するための管理職の教育徹底<br>教職員、保護者の理解   |
|                    |                 | <p>8 <b>スクールカウンセラーの全校配置</b><br/>スクースカウンセラーは小学校でのニーズが高いため、全校配置を実現して互いの連携を強化し、支援や対応を継続して実施する。[課題 ]</p>  | 市教育委員会・学校   | 優先   | 平成29年度 小学校で全校配置                  | 予算の確保   |
|                    |                 | <p>9 <b>ソーシャルワーカーの巡回充実</b><br/>不登校、虐待、非行などへの対応には、子どもの背景にあるさまざまな問題への対策が求められる。その人材として、ソーシャルワーカーの巡回を充実させる。[課題 ]</p>  | 市教育委員会・学校   | 優先   | 平成29年度 全校に月1回以上の巡回               | 学校とともに活動する専門の人材が必要  |
| 8 備考(関連する他分科会の項目等) |                 |   |   |  |                                  |   |

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号

3-2

| 1 提言件名(内容)            |               | 2 担当分科会  |  | 3 達成時期  |          |                               |  |
|-----------------------|---------------|--|--|---|----------|-------------------------------|--|
| 特別支援教育の充実(偏見のない個別の支援) |               | 教育・学習  |  |   |          |                               |  |
| 4 現状                  | 7             | No   | (1)提案事項  | (2)担い手  | (3)優先度   | (4)目標など                       | (5)提案実現への課題                                  |
|                       |               | <p>(1)保健・医療・福祉・教育の連携が不十分のため、個別の支援が継続されにくく、学校選択や特別支援学級と通常学級の学校選択や移行の際、相談および支援に一貫性がなく、場当たりのになっている。</p> <p>(2)小学校長会の研究(平成22年度報告)によれば、発達障害が疑われる児童・生徒の教育的支援は94.6%が「担任による個別的配慮」で、通常学級における支援は、担任一人に課せられている。</p> <p>(3)発達障害の子どもの特性は正しく理解されず、否定的な評価を受けることが多く、自己肯定感を養うことを妨げ、二次障害へと移行していくこともある。</p> | 1  | <b>子どもの発達を見守る行政連携</b><br>保健・医療・福祉・教育・各行政の連携強化特に教育と福祉の組織の一部は一本化する。[課題] | 市・市教育委員会 | 最優先                           | 平成26年度 専門部署を設置                               |
|                       |               | 2  | <b>5歳児健診の導入で就学前に対応</b><br>発達障害やその傾向など、個別の課題を早期に理解し、適切に対応する。[課題]                                      | 市・市教育委員会  | 最優先      | 平成26年度 導入                     | 学校教育と医療の連携                                   |
|                       |               | 3  | <b>特別支援に関わる人材の充実</b><br>補助指導員を確保する。また、研修の充実により、専門知識を持つサポーターを増員する。[課題]                                | 市教育委員会・学校・民間団体・地域・保護者   | 最優先      | 平成26年度 市費                     | 専門知識のあるサポーター増員のための予算確保                       |
| 5<br>あるべき姿            | 課題解決のための具体的提案 | 4  | <b>特別支援教育センターの開設</b><br>保護者・教員からの相談機能ならびに教育現場での実践研究と研修の機能をもつ。[課題]                                    | 市教育委員会・学校   | 最優先      | 平成26年度 市内4か所に開設               | 就労に至るまでの児童・生徒の追跡調査の実施                        |
|                       |               | 5  | <b>個別指導計画の適正活用</b><br>個別指導計画の活用方法を見直し、特別支援コーディネーターを含めたチームで、効果的に活用する。[課題]                             | 市教育委員会・保護者・特別支援コーディネーター   | 優先       | 平成29年度 特別支援コーディネーター配置とともに次実施  | 人材・予算の確保                                     |
|                       |               | 6  | <b>特別支援コーディネーターの専門職化</b><br>特別支援コーディネーターは専門職とし、全校に配置。学校・保護者とともに必要な支援の計画を統括する。[課題]                    | 市教育委員会・学校   | 最優先      | 平成26年度 全小中学校へ専門職としての配置        | 人材・予算の確保                                     |
| 6<br>解決すべき課題          |               | 7  | <b>コーディネーター同士の連携強化</b><br>小学校の特別支援コーディネーターは、保・幼と連携し、情報交換を密にする。また、中学校特別支援コーディネーターとの連携で、支援の継続をはかる。[課題] | 学校・保護者・特別支援コーディネーター・行政  | 優先       | 平成29年度 特別支援コーディネーター配置とともに順次実施 | 人材・予算の確保                                     |
|                       |               | 8  | <b>特別支援学級の全校配置</b><br>すべての小中学校に特別支援学級(通級指導学級)を置き、移行支援を含めて、個にあわせてきめ細かな教育を保障する。[課題]                    | 市教育委員会・保護者  | 優先       | 平成29年度 全小中学校への配置              | 予算・人材・場所の確保および保護者の理解<br>通常級と通級指導学級による日常からの連携 |
| 8 備考(関連する他分科会の項目等)    |               | 生活・共助分科会 2-8、2-21  |  |   |          |                               |  |

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号

3-3

| 1 提言件名(内容)   |    | 2 担当分科会   |  | 3 達成時期                      |  |                                 |  |
|--------------|----|---|--|-----------------------------|--|---------------------------------|--|
| 学校施設の整備と安全管理 |    | 教育・学習   |  |                             |  |                                 |  |
| 4 現状         | No | (1)提案事項   |  | (2)担い手                      | (3)優先度   | (4)目標など                         | (5)提案実現への課題                                    |
|              |    | (1)学校のICT化が遅れ、社会から取り残されている。<br>(2)快適に学習するための施設整備が不足している。<br>(3)児童・生徒の日常の安全管理や災害時の行動基準について、学校・保護者・地域での共通認識がない。 | 7  | 1                           | <b>教職員の事務作業のICT化</b><br>学校をICT化し、教職員がそれを使いこなせるよう充実した研修を実施し、事務作業を効率化する。[課題] | 市教育委員会・学校・企業                    | 最優先  |
| 5 あるべき姿      | 7  | 2   | <b>授業へのICTの導入</b><br>電子黒板・校内無線LANを導入、タブレットPCを全児童・生徒へ配布し、授業の質の向上と個々に応じた授業を推進する。[課題]                     | 市教育委員会・学校・企業                | 最優先  | 平成26年度 全小中学校に導入                 | ICTに対応した学習内容・教材などの見直し                          |
|              |    | 3   | <b>ICTによる多様なつながりの充実</b><br>不登校児童・生徒の学習面をサポートするために、教材をネット配布する。また、学校と保護者・地域とのコミュニティの場を形成する。[課題]          | 市教育委員会・学校・企業・保護者・地域         | 最優先  | 平成26年度 全小中学校に導入                 | 対象となる児童・生徒のうち、希望者への学校からパソコンの貸出し                |
| 6 解決すべき課題    | 7  | 4   | <b>人とICTによる図書利活用の促進</b><br>図書館司書や司書教諭を全小中学校に配置する。市立図書館と学校図書館をオンラインで結び、公共書籍を学習に活かす。[課題]                 | 市教育委員会・学校・地域                | 優先   | 平成29年度 司書または司書教諭を全小中学校に配置       | 図書館のICT化<br>人材育成と予算<br>地域ボランティアの運営協力           |
|              |    | 5   | <b>学校のユニバーサルデザイン化</b><br>学校は地域住民にとって身近な公共施設、防災拠点であるため、校舎のバリアフリー化・エレベーターの設置・トイレの改修など、ユニバーサルデザイン化する。[課題] | 学校・保護者・市教育委員会               | 優先   | 平成34年度 全小中学校をユニバーサルデザイン化        | 整備目標の設定<br>学校・保護者による学校施設づくりへの参画                |
|              |    | 6   | <b>地域連携の防災訓練の定期実施</b><br>学校・保護者・地域が連携して、災害を想定した防災訓練(避難所開設訓練・支那物資配布訓練など)を実施する。[課題]                      | 学校・保護者・地域・警察署・消防署           | 最優先  | 平成26年度 全小中学校で年1回実施              | 警察署・消防署の協力<br>防災についての学校・保護者・地域による学校運営協議会などでの協議 |
| 7            | 7  | 7   | <b>通学路の安全性向上</b><br>通学路の安全点検を学校・保護者・児童・生徒・地域が一緒におこない、通学路安全マップを作成し、地域ぐるみで児童・生徒を見守るしくみをつくる。[課題]          | 学校・保護者・児童・生徒・地域・スクールガードリーダー | 最優先  | 平成26年度 全小中学校で通学路安全マップを作成し、年1回更新 | スクールガードリーダーの活用<br>学校・保護者・地域が学校運営協議会などでの協議      |
|              |    | 8 備考(関連する他分科会の項目等)  |  |                             |  |                                 |  |

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号

3-4

| 1 提言件名(内容)           |   | 2 担当分科会              |  | 3 達成時期                |   |   |  |
|----------------------|---|----------------------|--|-----------------------|---|---|--|
| 社会性・人間性を育む教科「市民科」の創設 |   | 教育・学習                |  |                       |   |   |  |
| 4 現状                 | (1)社会の中で孤立したり、他人とのかわりに消極的な大人が増えている。また、PTAや町会・自治会が取り組む地域の課題に無関心な人も増えている。<br>(2)児童・生徒が他者や自然とかかわる機会が減少し、他者を理解し助け合うなど、社会性を育むことが難しい。<br>(3)戦後66年がたち、戦争体験者が減っているなか、戦争の悲惨さや平和であることの大切さを感じる人が減っている。 | No                   | (1)提案事項  | (2)担い手                | (3)優先度  | (4)目標など                                   | (5)提案実現への課題  |
|                      |   | 5 あるべき姿<br>6 解決すべき課題 | (1)市民一人ひとりが地域の課題を自身の課題としてとらえ、仲間とともに協力し合い解決しようとする社会性・人間性を育む教育がおこなわれている。<br>(2)受容と共感の心を育て、他者を理解し自分らしさを表現できる「体験を中心とした多様な教育」がおこなわれている。<br>(3)すべての市民が小さい時から、平和であることに感謝し、日本だけでなく世界の恒久平和を願う心を育てる平和教育を受けている。<br><br>新しい教科「市民科」についての保護者などの理解<br>社会性を高めるソーシャルスキルを学ぶための地域と専門家の力の活用。公共の中で個人の役割を自覚できる子どもを育てる。<br>戦争体験者の講和などの機会の確保、充実<br>将来を切り拓いていける子どもの育成 | 1                     | <b>社会性・人間性を育む教科「市民科」の創設</b><br>社会で生きていくために必要な「公共と個人のかかわりへの理解」「素直でやさしい心」「平和を愛する心」「状況を把握し切り拓いていける力」などを育む「徳育」を目的とした教科「市民科」を創設する。[課題] | 市教育委員会・保護者                                | 最優先  |
| 2                    | <b>公共と個人のかかわりが分かる子どもの育成</b><br>市役所など身近な行政機関の機能や基本計画を学ぶとともに、その担い手として一人ひとりの市民の参画が大切であることを学ぶ。[課題]  |                      |  | 市教育委員会・市              | 最優先   | 平成26年度 導入                                 | 社会科の授業との整理   |
| 3                    | <b>コミュニケーション能力の高い子どもの育成</b><br>体験と発表を中心とした学習を実施により、コミュニケーション能力を高める。また、いじめや仲間はずれのない社会形成のために、自他ともに認められる心を育成する。[課題]  |                      |  | 市教育委員会・学校・家庭・地域・臨床心理士 | 最優先   | 平成26年度 小中学校でコミュニケーションの授業を実施し、成果を発表        | 社会性を高めるための、地域と専門家の力の活用<br>学校での取り組みを児童・生徒が発表するサミットの開催 |
| 4                    | <b>他者を理解し認め合い助け合える子どもの育成</b><br>学校・地域の清掃活動、家庭での家事分担、老人施設や障害者施設との交流、保育園や幼稚園との交流を通じて、勤勉性やボランティア精神、他者を理解する力を育成する。[課題]  |                      |  | 市教育委員会・学校・家庭          | 優先  | 平成29年度 左記施設と月1回の交流を実施                     | 清掃活動、家庭での家事をおこなう機会の減少<br>学校と地域の各施設と交流をもつこと           |
| 5                    | <b>自然の大切さを感じられる子どもの育成</b><br>自然体験の継続的な実施や座学での環境教育の充実により、自然の偉大さを感じ、これを大切にしていける子どもを育成する。[課題]  |                      |  | 市教育委員会・学校・家庭・地域・企業    | 最優先   | 平成26年度 全小中学校が自然体験のテーマを選択                  | 地域住民と保護者の学校への協力<br>学校は一定の権限を地域住民と保護者へもたせることが必要       |
| 6                    | <b>八王子を愛する子どもの育成</b><br>八王子がふるさとだと思える郷土教育を充実し、地域を愛せる子どもを育てる。[課題]  |                      |  | 市教育委員会・学校・地域          | 段階的实施   | 平成26年度「市民科」のカリキュラムとして、全小中学校に導入            | 史跡めぐりや伝統芸能を体験する機会の充実                                 |
| 7                    | <b>平和の尊さを感じられる子どもの育成</b><br>八王子空襲体験者の講話やその記録映像などで戦争の悲惨さを伝える。修学旅行で広島へ行き、原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さを学ぶ。[課題]   |                      |  | 市教育委員会・学校・地域          | 最優先   | 平成26年度「市民科」のカリキュラムとして、全小中学校に導入            | 戦争体験者の講話などを伝える機会の充実<br>広島を修学旅行の目的地に加えることによる旅費の増加     |
| 8                    | <b>情報を読み解く力を備えた子どもの育成</b><br>子どもを取り巻くメディア環境の変化に対応できる情報を読み解く力を育てるメディアリテラシー教育を推進する。[課題]   |                      |  | 市教育委員会・学校・家庭          | 優先  | 平成29年度 50%の小中学校が学校のホームページに児童、生徒のコーナーを設け運営 | 保護者の情報能力の向上  |
| 9                    | <b>将来への夢を描ける子どもの育成</b><br>小・中学校でのキャリア教育を充実し、多様な仕事の中から自分が興味をもてる仕事を発見させ、それに向けて学習する子どもを増やす。[課題]  |                      |  | 市教育委員会・学校・地域などの企業     | 最優先   | 平成26年度 体験できる職種が30種類となっている。                | キャリア教育に対する関係者の理解<br>協力企業の拡大                          |
| 8 備考(関連する他分科会の項目等)   |   |                      |  |                       |   |   |  |

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号

3-5

| 1 提言件名(内容)         |   | 2 担当分科会   |  | 3 達成時期   |   |   |  |  |
|--------------------|---|---|--|--|---|---|--|--|
| 豊かな教員力の養成とその支援     |   | 教育・学習   |  |  |   |   |  |  |
| 現状                 | No  | (1)提案事項   |  | (2)担い手   | (3)優先度  | (4)目標など   | (5)提案実現への課題  |  |
|                    |   | <p>(1)事務作業、保護者対応などで現場の教員が非常に忙しくなり、子どもと向き合う時間が減っている。</p> <p>(2)教員の指導力には個人差が大きく、等しく良質な教育を受けられない。</p> <p>(3)団塊世代の大量退職に伴い新任教員が増え、学内の指導体制が十分でない。</p> <p>(4)一人で問題を抱え込み、心や体を病んで、休職や退職する教員が少なくない。</p>   | 7  | <p><b>教員をサポートする体制の充実</b><br/>学校や学校運営協議会・PTA・地域・市が連携して、教員の活動をフォローする体制をつくる。[課題]</p> <p><b>教員の意識改革を促す研修の充実</b><br/>教員の研修を見直し、ワークショップやロールプレイなど参加型の研修を取り入れるなど内容を整理・充実させる。[課題]</p> <p><b>実践的な研修の充実</b><br/>すべての教員は、疑似体験や実習を必須とした特別支援教育の研修を受ける。[課題]</p> | <p>学校・保護者・地域・市・NPOなど</p> <p>教員・学校管理職・市教育委員会</p> <p>教員・学校管理職・特別支援コーディネーター・支援団体など</p> | <p>最優先</p> <p>段階的实施</p> <p>最優先</p>                      | <p>平成25年度 開始</p> <p>平成25年度 開始</p> <p>平成26年度 全教員に実施</p> | <p>運営協議会や青少年対策地区委員会の活用</p> <p>教員自身の意識<br/>企業研修の活用</p> <p>学校職員や保護者の参加<br/>学校全体で共通認識<br/>スキルアップのため2年に一度の実施</p> |
| あるべき姿              | 課題解決のための具体的提案   | <p>(1)教員は、十分な人的サポートを受け、教材研究や研修などに時間を使い、余裕をもって授業や生活指導などに当たっている。</p> <p>(2)教員は、人間を育てるという職業であることを自覚し、一定レベル以上の指導力を有し、自らの個性を活かしながら教育をおこなっている。</p> <p>(3)教員の養成、指導には、学内だけでなく、学外の人材も活用するなど、多角的な指導体制が整っている。</p> <p>(4)教員が気軽に、勤務後にも相談できる機関が設置されている。</p> <p>(5)教員は社会の中で尊敬され、教員自身も誇りをもち、やりがいを感じている。</p> | 4  | <p><b>教員同士が協力し合う風土の醸成</b><br/>教員同士が関わり合いながら相互研鑽する活動や研修で関係を深め、協力体制を充実させる。[課題]</p>   | <p>教員自身・学校管理職</p>   | <p>最優先</p>  | <p>平成26年度 全教員に実施</p>                                   | <p>教員同士のコミュニケーションの醸成</p>   |
|                    |   | <p><b>改善意欲を高める体制の整備</b><br/>先生からの提案を受ける場を別組織でつくり、学校にフィードバックし、改善に直結させる。[課題]</p> <p><b>職務の能力と業績の評価制度の確立</b><br/>教員が自身を客観的に知り、レベルアップするための前提として、職務の能力と業績の評価方法を確立する。[課題]</p>   | 5  | <p>学校・保護者・地域等を含め市教育委員会が検討</p>  | <p>段階的实施</p>  | <p>平成27年度 開始</p>  | <p>学校以外の受け皿をつくることの抵抗感</p>                              |  |
| 解決すべき課題            | <p>教員と、保護者、地域などとの連携</p> <p>教員の自己啓発意識の向上と行政、地域などによる研修の機会の提供</p> <p>教員を支援する体制の整備と、市民講師の活用</p> <p>教員が相談しやすい体制の整備</p> | 7   | <p><b>教員の呼称として「教師」を奨励</b><br/>教員は人の一生に関わる職業であり、将来の社会を担う人づくりに当たっていると自覚を向上させるため、その呼称として「教師」の使用を奨励する。[課題]</p> | <p>市教育委員会</p>  | <p>段階的实施</p>  | <p>平成26年度 段階的に展開<br/>平成34年度 定着</p>                      | <p>市教育委員会の措置</p>                                       |  |
|                    | 8   | <p><b>教員力の向上を多様な立場でサポート</b><br/>教員の成長をサポートする人材を確保する(事務処理・授業支援・補習支援・教材製作・カウンセラーなど)。[課題]</p>  | <p>市教育委員会・ボランティア・NPO・PTAなど</p>   | <p>最優先</p>   | <p>平成27年度より各校に必要な人員の確保</p>  | <p>正規人員の確保<br/>市独自の人材の発掘・育成<br/>地域のボランティアや学生、NPOの活用</p> |  |  |
|                    | 9   | <p><b>教員の心の健康の見守り</b><br/>教員の精神的な安定は、良質な教育活動の大前提である。教員の相談窓口をプライバシーを保護しながら、確保する。[課題]</p>   | <p>スクールカウンセラー・市教育委員会</p>   | <p>段階的实施</p>   | <p>平成27年度 体制を確立</p>   | <p>相談体制の整備と場所の確保</p>                                    |  |  |
| 8 備考(関連する他分科会の項目等) |   |   |  |  |   |   |  |  |



新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号

3-6

| 1 提言件名(内容)         |                 | 2 担当分科会   |   | 3 達成時期   |                                |                                |                                 |
|--------------------|-----------------|---|---|--|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|
| 家庭教育力の向上(生活力と学習力)  |                 | 教育・学習   |   |  |                                |                                |                                 |
| 4 現状               | No              | (1)提案事項   | (2)担い手  | (3)優先度   | (4)目標など                        | (5)提案実現への課題                    |                                 |
|                    |                 | <p>(1)家庭は、子どもの育ちの基盤であり、心のよりどころであると同時に、学校・地域と連携し、生活力・学習力を培い、社会に送り出す準備をする場所であるはずだが、子どもと向き合う時間がない親や、子どもと向き合うことを避ける親が増えている。</p> <p>(2)望ましくない家庭環境や家庭の経済格差が、子どもの教育・学力格差に影響しているが、適切な支援が届きにくい。</p> <p>(3)子育て中の親へのサポート体制が確立されていない。</p> <p>(4)核家族の増加や地域との関係が希薄な家庭が増え、子育てに不安を抱えていても、身近に気軽に、子育てのアドバイスを得ることが難しい。</p> | 1   | <b>仕事と生活の調和を尊重する意識の普及</b><br>子どものときから、学校教育の中で家庭の役割や人の発達について学び、自分のワークライフバランスを考える機会をもつ。[課題 ] | 市教育委員会・支援員(カウンセラー・ソーシャルワーカーなど) | 優先                             | 平成29年度 各学年で授業を実施                |
| 5 あるべき姿            | 7 課題解決のための具体的提案 | 2   | <b>親として成長できる学習機会の充実</b><br>親への一貫したサポートシステムを構築し、「子どもの発達段階」や「親子のコミュニケーションの方法」などを学習する。[課題 ]      | 市教育委員会・保健師・助産師・支援員(カウンセラー・ソーシャルワーカーなど)   | 優先                             | 平成29年度 受胎家庭への講座内 内容の見直しと受講の義務化 | 「発達の偏り」の傾向への早期対応 偏見をなくすプログラムの実施 |
|                    |                 | 3   | <b>行政と家庭の連携強化</b><br>「教育」と「福祉」の子どもに関わる行政組織の一部を一本化し、共有された情報を家庭教育に活かせる行政連携を確保する。[課題 ]           | 市教育委員会・市   | 優先                             | 平成28年度 実施                      | 児童福祉行政・教育行政の情報共有化と組織改革          |
| 6 解決すべき課題          | 7 課題解決のための具体的提案 | 4   | <b>保護者同士の連携の強化</b><br>保護者に一番近い学校やPTAから、保護者に対する子育て情報を発信したり、啓発の講演会を開催する。[課題 ]                   | 学校・PTA   | 優先                             | 平成27年度 全校で講演会等を実施              | 保護者間の連携のための体制づくり                |
|                    |                 | 5   | <b>PTAと家庭の連携強化</b><br>PTA活動を楽しく参加しやすくし、保護者同士の子育て相談の場所にする。学校に足を運ぶことによって、子どもの状況を知るきっかけとする。[課題 ] | PTA・保護者  | 優先                             | 平成29年度 実施                      | 学校とPTAの連携                       |
|                    |                 | 6   | <b>相談体制の24時間化</b><br>ネット利用も可能にし、24時間体制の発達・教育相談窓口を開き、働くひとり親なども相談に行きやすくする。[課題 ]                 | 市・支援員(カウンセラー・ソーシャルワーカーなど)  | 最優先                            | 平成27年度 子育てに関する相談時間の延長及び休日対応実施  | 人材・場所の確保、IT窓口の開設                |
| 8 備考(関連する他分科会の項目等) |                 | 生活・共助分科会2-10、2-17、教育・学習分科会3-10  |   |  |                                |                                |                                 |

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号 3-7

| 1 提言件名(内容)         |               | 2 担当分科会   |  | 3 達成時期                       |   |                             |  |
|--------------------|---------------|---|--|------------------------------|---|-----------------------------|--|
| 学校をとりまく地域力の養成と連携   |               | 教育・学習   |  |                              |   |                             |  |
| 4 現状               | No            | (1)提案事項   |  | (2)担い手                       | (3)優先度  | (4)目標など                     | (5)提案実現への課題                                      |
|                    |               | <p>(1)地域運営学校の推進、教育支援ボランティアの導入、サタデースクールの実施など、学校と地域の融合をはかる施策は数多くあるものの、地域住民への周知や運用面で不足感がある。</p> <p>(2)学校・保護者・地域の協働を目指しながらそのつなぎ役が育っていない。地域ごとに住民やPTAの意識の違いが大きく、企業やNPOなどの地域資源の活用が不十分である。</p> <p>(3)八王子市の制度やしきみについて、市外から異動してきた教員がこれらのしきみや地域の力を活用する方法を知らないケースが多い。</p> | 7  | 1                            | <b>学校運営協議会の全校設置</b><br>全小中学校に学校運営協議会を設置し、学校は保護者・地域と協働した教育内容や学校経営を目指す。[課題] | 市教育委員会・学校・地域ボランティア          | 優先   |
|                    |               | 2   | <b>通勤時間の短い教員の優先配置</b><br>教員が、地域との関係を深めるために、地域行事に積極的に参加しやすい職員配置をおこなう。[課題]                               | 市教育委員会・都教育委員会・学校・教員          | 優先  | 平成29年度までに、各学校の教員の5割を片道1時間以内 | 都内や他地域での経験と、地域や保護者との絆のバランス<br>教職員の人事権限           |
|                    |               | 3   | <b>学校選択制の再検証</b><br>地域の子どもは地域で育てるという観点から、学校選択制の有効性を再検証する。[課題]  | 市教育委員会・学校・保護者・地域・行政          | 最優先   | 平成26年度 検証委員会の立上げ            | 学校選択制のメリット・デメリットを再検証                             |
| 5 あるべき姿            | 課題解決のための具体的提案 | 4   | <b>学校支援コーディネーターの専門職化</b><br>学校と地域を結ぶ学校コーディネーターをスペシャリストとして養成し、一定の基準で専門職とする。[課題]                         | 市教育委員会・学校・学校コーディネーター・地域人材    | 最優先   | 平成26年度 制度化                  | 研修講師の選任<br>地域性をふまえての、コーディネーターの理解<br>顕著な成果の展開     |
|                    |               | 5   | <b>校外講師の活用促進</b><br>民間企業や地域等のスペシャリストを講師とした、仕事に関する授業の実施や部活動の運営を促進する。[課題]                                | 市教育委員会・学校・学校コーディネーター・地域人材・企業 | 優先  | 平成26年度 部活指導者の50%を教職員以外      | 講師の選任、授業枠の確保<br>「教育支援人材バンク」の活用による、地域や卒業生からの指導者確保 |
|                    |               | 6   | <b>空き教室の開放による地域力の向上</b><br>学校施設は子ども育成活動など、地域活動に積極的に開放する。[課題]   | 市教育委員会・学校・地域・青少年対策委員会・NPO    | 優先  | 平成29年度 各学校での活用状況を調査・公表      | 学校経営者の意識改革。<br>管理人を置くなどの、教員以外の施設管理者の設置           |
| 6 解決すべき課題          |               | 7   | <b>地域向け授業の開講</b><br>学校の空き教室を利用して地域支援学級を開催する(子どもや障害者、子育てママや高齢者など、年齢や置かれている立場に関係なく誰もが参加できる授業を定期的実施)。[課題] | 学校・保護者・地域の人材                 | 優先  | 平成29年度 全市立小中学校で実施           | 学校内や、近隣でいろいろな人が「ゆったりとつながれる場」をつくるような、企画・運営の組織づくり  |
|                    |               | 8   | <b>地域と子どもの交流促進</b><br>地域と児童、生徒の交流をはかる授業を積極的に実施する。[課題]  | 市教育委員会・学校・地域企業・人材            | 優先  | 平成29年度 全市立小中学校で実施           | 講師の選任、授業枠の確保                                     |
| 8 備考(関連する他分科会の項目等) |               |   |  |                              |   |                             |  |

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号 3 - 8

| 1 提言件名(内容)         |    | 2 担当分科会  |               | 3 達成時期 |   |  |             |
|--------------------|----|--|---------------|--------|---|--|-------------|
| 教育センターの機能強化        |    | 教育・学習  |               |        |   |  |             |
| 4 現状               | No | (1)提案事項  |               | (2)担い手 | (3)優先度  | (4)目標など                                    | (5)提案実現への課題 |
|                    |    | <p>(1)教育センターの機能については、『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』第30条の「教育に関する専門的・技術的事項の研究、保健もしくはは福利厚生に関する施設その他の必要な教育機関」に該当し、教育委員会としてのシンクタンクの機能が求められる。しかし、教育センターの現状としては、ただ単に定型的に研修する機関に終始している。そして、囑託の職員が多く、責任体制が不明確である。また、教員が指導方法の悩みなどについて相談できる機能がない。</p> <p>(2)専門スタッフが不足しているため、学校教育課題に対する継続的な研究が不十分である。</p> |               | 1      | <b>市費による専属職員の配置</b><br>教育センターに専属の主任指導主事および指導主事を市費で配置する。[課題] | 市教育委員会                                     | 最優先         |
| 7 課題解決のための具体的提案    | 2  | <b>教員用図書館の設置</b><br>教員の自主的な職能開発を推進するために教育センター内に教員用の図書館を設置する。[課題]   | 市教育委員会        | 最優先    | 平成26年度 設置   | 教育図書・資料・学習指導案などを充実                         |             |
|                    | 3  | <b>多様な研修の整備</b><br>実践力や意識が高められるワークショップやロールプレイングなどの参加型の多様な研修も導入する。[課題]  | 市教育委員会        | 最優先    | 平成26年度 導入   | 効果的に達成できる研修の工夫・改善                          |             |
| 5 あるべき姿            | 4  | <b>教育支援アドバイザーの設置</b><br>教員のさらなる職能開発のために、学識経験者・元校長・元副校長(元教頭)・教諭など指導力に定評がある教員経験者を教育支援アドバイザーとして配置する。[課題]  | 市教育委員会        | 最優先    | 平成26年度 配置   | アドバイザーのための予算の確保                            |             |
|                    | 5  | <b>教員の指導力を高める支援</b><br>年間指導計画や学習指導案の作成、教材開発の方法、指導法、児童・生徒理解、通知票などの評価、校内研修のあり方など、各学校で工夫・改善していけるように支援する。[課題]  | 市教育委員会        | 最優先    | 平成26年度 全教員に対し実施   | 学校経営の支援                                    |             |
|                    | 6  | <b>校内研修・研究の充実</b><br>各学校の教育目標の達成や教育課題の解決を目指し、日常の教育実践と一体的に進めるための校内での研修や研究を充実させる。[課題]  | 市教育委員会        | 最優先    | 平成26年度 全小中学校で実施   | 教育委員会事務局の、校内研修・研究の奨励等に対する支援                |             |
|                    | 7  | <b>教育研究校の奨励</b><br>教育研究校を推進し、全ての小中学校が研究校として進んで実践研究に当たることができるように推進する。[課題]   | 市教育委員会        | 最優先    | 平成26年度 全小中学校で実施   | モデル事業などの情報提供                               |             |
| 6 解決すべき課題          | 8  | <b>カリキュラム開発委員会の設置</b><br>カリキュラム開発委員会を設置し、カリキュラムや教材などの開発方法について、各小中学校に情報提供し、共有化をはかる。[課題]   | 市教育委員会        | 最優先    | 平成26年度 設置   | 各小中学校への技術的な知識・情報の提供                        |             |
|                    | 9  | <b>教育実践研究の促進</b><br>学校現場の客観的なデータとして、教育実践研究のデータを蓄積し、学校教育政策に反映できるよう整備する。[課題]   | 市教育委員会・外部関係機関 | 最優先    | 平成26年度 整備   | 教育実践研究および児童・生徒、保護者へのアンケート調査などの資料やデータの蓄積と活用 |             |
|                    | 10 | <b>研究制度の充実</b><br>教育課題調査・副教本の作成・教育実践に基づく臨床心理研究にリンクしたカリキュラム開発研究をおこなう研究員制度(任期3年)を実施する。[課題]   | 市教育委員会・外部関係機関 | 最優先    | 平成26年度 実施   | 予算の確保                                      |             |
| 8 備考(関連する他分科会の項目等) |    |  |               |        |   |  |             |

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号 3-9

| 1 提言件名(内容)         |    | 生涯学習の環境整備   |   | 2 担当分科会      |  | 教育・学習                                      |     |                                       | 3 達成時期 |                  |
|--------------------|----|---|---|--------------|--|--|-----|---------------------------------------|--------|------------------|
| 4 現状               | No | (1)提案事項   |   | (2)担い手       | (3)優先度   | (4)目標など                                    |     | (5)提案実現への課題                           |        |                  |
|                    |    | <p>(1)平成22年3月に策定された「八王子生涯学習プラン」では、市民と地域が主役となり、行政と協働で進めていく生涯学習のあり方が示されている。</p> <p>(2)市民一人ひとりの学習活動・市民活動に対する意識が高まりつつあるが、市がおこなってきた推進事業(講座等)は市民のニーズに合っているとはいえない。</p> <p>(3)生涯学習を充実させるための環境として自主学習室が少なく、情報量も十分ではない。</p> <p>(4)図書館など市の既存の施設が人口と地域のバランスに配慮されていない。</p> | 7   | 1            | <b>コーディネーターの役割強化</b><br>生涯学習に関わるコーディネーターの役割を強化し、行政と協働で講座の企画・運営や学習相談活動や広報活動に携わる機会を増やす。[課題 ] | 市教育委員会・市民                                  | 最優先 | 平成25年度 検討委員会を設置<br>平成28年度 コーディネーターの活用 |        | 資格認定制度の設定とレベルアップ |
| 5 あるべき姿            | 7  | 2   | <b>自主学習室の充実</b><br>市の既存施設(生涯学習センター・市民センターなど)に自主学習室を設け、無料で提供する。[課題 ]   | 市教育委員会       | 優先   | 平成25年度 自主学習室設置施設の検討を開始<br>平成27年度 使用開始      |     | 学生・勤労者も利用しやすい利用時間の設定                  |        |                  |
|                    |    | 3   | <b>地区図書館の直営分室化</b><br>地区図書館の直営分室化を進める。[課題 ]   | 市教育委員会       | 優先   | 平成25年度から順次分室化<br>平成34年度内 すべての地区図書館の直営分室化終了 |     | 図書館と地区図書館の役割の明確化                      |        |                  |
| 6 解決すべき課題          | 7  | 4   | <b>図書館の充実</b><br>人口と地域のバランスに配慮して図書館を増設するとともに、蔵書や視聴覚資料の見直しなど、既存の図書館の充実をはかる。[課題 ]                                 | 市教育委員会・市民    | 優先   | 平成25年度 蔵書や視聴覚資料の見直し<br>平成34年度 図書館の開設       |     | 図書館の増設を必要とする地域の調査                     |        |                  |
|                    |    | 5   | <b>小・中学校の活用促進</b><br>徒歩圏内に学習施設がない地域では小・中学校の教室が利用できるようにする。[課題 ]  | 市教育委員会       | 優先   | 平成25年度 該当地域の絞り込み<br>平成27年度 利用開始            |     | 実施日や安全面の配慮                            |        |                  |
|                    |    | 6   | <b>生涯学習ガイドの作成</b><br>行政と協働で生涯学習ガイド「(仮)学びの樹」を作成し、市民に全戸配布する。[課題 ]   | 市教育委員会・市民・企業 | 最優先  | 平成27年度 作成・配布                               |     | 市と市民の協働による作成                          |        |                  |
|                    |    | 7   | <b>講座情報のリアルタイム化</b><br>生涯学習に関する講座の管理をおこない、常に最新の情報を提供するウェブサイト「(仮)学習リンク」の管理運営をおこなう団体を設立し、市民に分かりやすく周知するしきみの整備[課題 ] | 市教育委員会・企業    | 優先   | 平成26年度 団体設立<br>平成29年度 運営開始                 |     | 既存の「生涯学習夢ネット」の機能強化                    |        |                  |
| 8                  | 7  | 8   | <b>図書館での学習相談・ガイダンス開始</b><br>図書館においても学習相談やガイダンスをおこない、学習活動や市民活動への参加を促す。[課題 ]                                      | 市教育委員会・市民    | 優先   | 平成25年度 検討委員会設置<br>平成29年度 学習相談やガイダンスの開始     |     | 市民活動支援センターなどの活用                       |        |                  |
|                    |    | 9   | <b>学習成果発表機会の充実</b><br>生涯学習フェスティバルに個人発表の場を設けたり、市の施設に展示コーナーを設けるなど、個人単位でも学習成果を発表できる場をつくる。[課題 ]                     | 市教育委員会・市民    | 優先   | 平成25年度 検討を開始<br>平成27年度 フェスティバル2日間開催        |     | 開催日数の拡大                               |        |                  |
| 8 備考(関連する他分科会の項目等) |    |   |   |              |  |  |     |                                       |        |                  |

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号

3-10

| 1 提言件名(内容)         |                 | 2 担当分科会  |  | 3 達成時期   |        |  |  |
|--------------------|-----------------|--|--|--|--------|--|--|
| 学びから市民がつながる        |                 | 教育・学習  |  |  |        |  |  |
| 4 現状               | 7 課題解決のための具体的提案 | No   | (1)提案事項  | (2)担い手   | (3)優先度 | (4)目標など  | (5)提案実現への課題  |
|                    |                 | <p>(1)八王子市では、個人やグループによる学習活動・市民活動が盛んにおこなわれている。最近では仕事と生活のバランスのとれた暮らしを目指すワークライフバランスの考え方が注目されている。</p> <p>(2)団塊の世代の退職に伴い学習活動や市民活動に興味を持つ市民が増えている。また、学習をきっかけに地域活性化を目的とする活動があらわれ始めている。しかし、大多数の学習活動は「自己完結型」にとどまっており、学びの成果が地域活動やビジネスにつながりにくい状況にある。</p> <p>(3)都市化・少子化が進展するなかで、社会との接点が少ない、人間関係が希薄であることが社会問題となっている。</p> | 1  | <p><b>市民活動推進キャンペーン</b><br/>生涯学習センターや市民センターでおこなわれるイベントの際に市民活動を紹介するコーナーを設けるとともに、ワークライフバランスを広げるため、仕事とは別に自分の市民活動や趣味を紹介する名刺を持つことを勧める「もう一つの名刺キャンペーン」を展開する。[課題 . . .]</p> | 市・市民   | 優先   | 平成26年度 イベント導入  |
|                    |                 | 2  | <p><b>小・中学校での市民公開講座の開催</b><br/>高等学校のほか、小・中学校においても公開講座を定期的開催し、教員の知識・技術を市民の生涯学習に活かす。[課題 . . .]</p>   | 学校・市教育委員会  | 段階的実施  | 平成34年度 各小・中学校で月1・2回の実施                         | 講師の確保<br>開催時期の検討   |
| 5 ありべき姿            |                 | 3  | <p><b>受講者のレベルアップ制度</b><br/>上級レベル講座や連続講座を設置したり、所定の課程修了者を講師として認定するなど、受講者がレベルアップできるしくみをつくる。[課題 . . .]</p>                                     | 市教育委員会・市民  | 最優先    | 平成25年度 検討開始<br>平成26年度 実施                       | 人材の確保  |
|                    |                 | 4  | <p><b>八王子の歴史・文化・伝統を学ぶ八王子“大”祭り</b><br/>八王子祭りが開催される1週間を八王子“大”祭りとし、多摩ニュータウン地区などからも関心をもたれるような祭りをとおして歴史・文化・伝統を学ぶ講座や体験などを集中的に提供する。[課題 . . .]</p> | 市教育委員会・市民・大学・企業  | 優先     | 平成26年度 検討開始<br>平成29年度 実施                       | 八王子祭りと生涯学習を結びつける、実行委員会の組織化<br>大学・企業などとの連携                  |
| 6 解決すべき課題          |                 | 5  | <p><b>地域・社会貢献の推進</b><br/>起業に関する講座や支援を充実させ、学びから地域貢献を目指すコミュニティビジネスや、社会貢献を目指すソーシャルビジネスを始めることを促す。[課題 . . .]</p>                                | 市・市教育委員会・市民  | 段階的実施  | 平成26年度 講座数6回<br>平成29年度 講座数12回<br>平成32年度 講座数20回 | 生涯学習関連所管と産業関連所管との連携<br>講座開催やビジネスの支援<br>支援に当たっての民間企業との協力・連携 |
|                    |                 |  | <p>「自己完結型」「受動型」の講座構成や市民の意識を「社会還元型」「自立型」へと導けるしくみをつくる。</p> <p>地域参加や起業を目指す市民への支援</p>  |  |        |  |  |
| 8 備考(関連する他分科会の項目等) |                 | 生活・共助分科会2-10、2-17、教育・学習分科会3-6  |  |  |        |  |  |

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号

3-11

| 1 提言件名(内容)         |  | 生涯スポーツ・レクリエーションの推進 |               | 2 担当分科会   |                                   |                               | 教育・学習       |               | 3 達成時期                        |  |
|--------------------|--|--------------------|---------------|---|-----------------------------------|-------------------------------|-------------|---------------|-------------------------------|--|
| 4 現状               | No   | (1)提案事項            |               | (2)担い手  | (3)優先度                            | (4)目標など                       | (5)提案実現への課題 |               |                               |  |
|                    |  | 7                  | 1             | <b>生涯スポーツ・レクリエーションガイドの作成・配布</b><br>スポーツ・レクリエーションのための施設や講座を網羅したガイドを市民に配布し、健康のために体を動かすことへの意識を高める。[課題] |                                   | 市教育委員会・市民・民間                  | 最優先         | 平成27年度 ガイドの配布 | 関連団体の協力<br>健康の観点からの、健康福祉部との連携 |  |
| 2                  | <b>学校体育館を利用したプログラム実施</b><br>小・中学校の体育館で短時間でもおこなうことができるようなプログラムを実施するなど、地域住民が健康づくりやスポーツに関心をもつ機会を充実させる。[課題]  |                    | 市教育委員会・市民     | 最優先   | 平成27年度 プログラム実施                    | 既存団体への配慮<br>開催場所の設定           |             |               |                               |  |
| 3                  | <b>スポーツ振興審議会の活性化</b><br>スポーツ振興審議会を活性化し、スポーツ政策の課題発掘と実効性の高い改善策の検討を進める。[課題]   |                    | 市教育委員会・市民     | 最優先   | 平成25年度 年4回の会議開催                   | 『スポーツ基本法』を踏まえた基本計画の見直し        |             |               |                               |  |
| 4                  | <b>体育指導委員選出方法の改善</b><br>体育指導委員の選出方法を、公募を優先する方法に改め、選出の際には指導できる種目が偏らないようにする。[課題]   |                    | 市教育委員会・市民     | 優先  | 平成25年度 順次実施                       | 人材育成と発掘                       |             |               |                               |  |
| 5                  | <b>八王子オリジナルスポーツ・体操の開発</b><br>ネオテニスのような新しいスポーツや高齢者でも無理なくできる八王子オリジナル健康体操を考案し、普及させる。[課題]  |                    | 市教育委員会・市民・民間  | 優先  | 平成26年度 健康体操の考案<br>平成30年度 新スポーツの考案 | 市民や市在住のスポーツ選手からのアイディアの募集      |             |               |                               |  |
| 6                  | <b>総合型地域スポーツクラブへの支援</b><br>多世代・多種目の団体が参加する総合型地域スポーツクラブが地域におけるスポーツ活性化の核となるように運営に対し、それぞれの実情に応じた支援をおこなう。[課題]  |                    | 市教育委員会・市民     | 段階的実施   | 平成30年度 活動拠点の確保                    | 地域の実情の把握                      |             |               |                               |  |
| 7                  | <b>スポーツ施設の増設</b><br>東部に体育館および室内プールを建設する。[課題]   |                    | 市教育委員会・民間     | 優先  | 平成34年度 完成                         | 地域住民の声の反映<br>建設費の面での効率的な方法の導入 |             |               |                               |  |
| 5 あるべき姿            | (1)市民が健康のために体を動かそうという意識をもって、日常生活を送っている。<br>(2)豊かな自然を活かしたアスレチックのある公園やジム機能をもつ施設などがバランスよく配置された環境のもと、身近な施設で気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しむことができる。<br>(3)新体育館でおこなわれるレベルの高いスポーツを観戦することにより、平成25年の東京多摩国体が終了した後も、市民一人ひとりがスポーツ・レクリエーションに対して高い関心と意欲をもっている。 |                    | 課題解決のための具体的提案 |   |                                   |                               |             |               |                               |  |
| 6 解決すべき課題          | 市民の意識向上のために、スポーツ・レクリエーション事業の情報や健康維持に関する情報の周知をはかる。<br>小中学校施設の利用など、徒歩圏内で活動できるよう、環境を整備する。<br>『スポーツ基本法』および今後策定される国や都のスポーツ振興計画を踏まえて、スポーツ振興基本計画の見直しをおこない、八王子市ならではの施策を展開する。<br>人口に対しスポーツ施設が少ない地域に施設を建設するほか、既存施設を有効かつ安全に利用できるよう、改修など整備する。    |                    |               |   |                                   |                               |             |               |                               |  |
| 8 備考(関連する他分科会の項目等) |  |                    |               |   |                                   |                               |             |               |                               |  |

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号 3-12

| 1 提言件名(内容)                   |               | 2 担当分科会  |   | 3 達成時期   |            |                                  |                               |
|------------------------------|---------------|--|---|--|------------|----------------------------------|-------------------------------|
| 地域文化と伝統産業に根ざした市制100周年記念事業の展開 |               | 教育・学習  |   |  |            |                                  |                               |
| 4 現状                         | 7             | No   | (1)提案事項   | (2)担い手   | (3)優先度     | (4)目標など                          | (5)提案実現への課題                   |
|                              |               | <p>(1) 現行ゆめおりプランにおける施策全般を見渡すとき、八王子の特色ある「地域文化の創造」の理念が欠如している。</p> <p>(2) “八王子にとっての地域文化とはなにか”の概念が確立していない。</p> <p>(3) 個々の文化活動がバラバラに展開している状況があり、まちづくり、地域のコミュニティ活性化に効果的につながっていない。</p>                              | 1   | <p><b>新しい市の歌の制定</b><br/>市制100周年記念事業として、新しい市歌を制定し、市民に地域への愛着を深めてもらう。[課題]</p> | 市民参加の選定委員会 | 最優先                              | 平成28年度 新市歌の発表<br>平成34年度 普及の推進 |
|                              |               | 2  | <p><b>イメージキャラクターの立上げ</b><br/>市制100周年を記念して、イメージキャラクターを選定する。[課題]</p>  | 市民参加の選定委員会   | 最優先        | 平成28年度 キャラクターの発表<br>平成34年度 普及の推進 | 市内の大学、特に美術系の大学と市内協賛企業の参加      |
| 5 あるべき姿                      | 課題解決のための具体的提案 | 3  | <p><b>多摩文化祭の開催</b><br/>オリンパスホールを活用し、100周年事業として多摩地域の文化団体が参加する「多摩文化祭」を開催する。[課題]</p>                         | 多摩地域の代表による実行委員会  | 優先         | 平成28年度 文化祭実施<br>以後隔年継続の開催        | 多摩地域協賛企業の確保                   |
|                              |               | 4  | <p><b>国際チェロコンクールを発展させた祭典</b><br/>100周年記念事業として、チェロコンクールを核とした音楽フェスティバルを開催する。[課題]</p>                        | チェロコン主催団体・フェスティバル関係者による実行委員会   | 優先         | 平成28年度 音楽フェスティバル実施               | 関連団体の組織化と実施資金の確保              |
|                              |               | 5  | <p><b>文化の高揚</b><br/>「吹奏楽の街・八王子」のイベント化を実現する。[課題]</p>   | 吹奏楽関連団体・市・市民参加の実行委員会   | 優先         | 平成34年度 開催実現                      | 関連団体の組織化と実施資金の確保              |
| 6 解決すべき課題                    |               | 6  | <p><b>文化の再生</b><br/>「桑のまち、絹のまち伝承プラン」の作成を100周年記念事業の目玉として位置づけ、桑畑復活、絹織物の魅力のアピールなど、新たな「桑都八王子」の伝承をはかる。[課題]</p> | 市民プランナー、織物団体、市・企業による企画・実行委員会   | 段階的实施      | 平成28年度 プランの構想発表<br>平成34年度 実現を検討  | 関連産業界の参画                      |
|                              |               | <p>市制100周年記念事業をとおした、八王子にとっての特色ある地域文化の概念の明確化<br/>例:学園都市・車人形を軸とする伝統文化、八王子城址を含む歴史史跡、オリンパスホールを拠点とする多摩文化センター構想など</p> <p>八王子独自の地域文化の継承と創造で、より成熟したまちづくりを目指す具体案の策定</p> <p>桑園を作り、絹織物が八王子の伝統産業であったことをイメージさせるプランの構築</p> |   |  |            |                                  |                               |
| 8 備考(関連する他分科会の項目等)           |               |  |   |  |            |                                  |                               |

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号

3-13

| 1 提言件名(内容)         |    | 2 担当分科会   |               | 3 達成時期   |               |  |
|--------------------|----|---|---------------|--|---------------|--|
| 八王子歴史博物館の創設        |    | 教育・学習   |               |  |               |  |
| 4 現状               | No | (1) 提案事項  | (2) 担い手       | (3) 優先度  | (4) 目標など      | (5) 提案実現への課題                                   |
|                    |    | (1)郷土資料館の市民の認知度は、現状では低い。<br>(2)市民による活用度合いが極めて低い。<br>(3)施設の老朽化が目立ち、収蔵品10万点を展示活用できていない。<br>(4)調査・研究に必要な学芸員数が確保できていない。 | 7             | <b>歴史博物館の創設による歴史再発見</b><br>郷土資料館から歴史博物館スタイルへ拡充発展させ、市民の歴史・文化に関する意識改革をはかる企画を実施する。[課題 ] | 市教育委員会・資料館・市民 | 最優先  |
| 5 あるべき姿            | 7  | <b>他地域との連携</b><br>市域外の同様施設との連携の呼びかけにより、実効性の高い博物館の創設をはかる。[課題 ]   | 市教育委員会        | 優先   | 平成26年度 実施     | 市内外の創設への機運の醸成<br>関係部署や市民の理解                    |
|                    |    | <b>歴史展示</b><br>歴史博物館の創設に向けて、八王子市制100年のあゆみをプレ展示し、市民の意識高揚をはかる。[課題 ]   | 市教育委員会・資料館・市民 | 最優先  | 平成26年度 実施     | 企画員と市民の共同による企画・展示の検討                           |
| 6 解決すべき課題          | 7  | <b>歴史に触れる教育</b><br>小・中学生を中心に歴史教育を進めるため、館内での催事のPR強化と、館外での学習指導の実施。また、日本史の授業に資料館見学を組み入れる。[課題 ]                         | 市教育委員会・資料館    | 最優先  | 平成25年度 実施     | 学校との情報交換の緊密化<br>ボランティアの協力<br>広く市民を対象にした啓発活動の実施 |
|                    |    | <b>歴史観光の促進</b><br>JRおよび京王八王子駅、高尾山口駅の人目に付きやすい場所に案内所を設置し、また市内の各駅には観光案内版を掲示する。[課題 ]                                    | 市観光協会         | 最優先  | 平成25年度 案内所設置  | 歴史・文化の存在紹介と観光行政の一体化                            |
| 6 解決すべき課題          | 7  | <b>歴史・文化巡り</b><br>市内の歴史・文化施設を循環するバス路線を設定し、交通の利便性向上をはかる。[課題 ]  | 市教育委員会・市民     | 優先   | 平成26年度 実施     | 交通機関の協力  |
|                    |    | <b>人の確保と効果的な活用</b><br>学芸員の待遇改善と意識を向上させる取組みを検討し、実施する。[課題 ]   | 市教育委員会・資料館・市民 | 優先   | 平成27年度 実施     | 嘱託の正職員化  |
| 8 備考(関連する他分科会の項目等) |    | まちづくり分科会4-8、産業分科会5-5  |               |  |               |  |



新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号

3-14

| 1 提言件名(内容)         |  | 2 担当分科会 |         | 3 達成時期   |                  |        |   |                    |
|--------------------|--|---------|---------|--|------------------|--------|---|--------------------|
| 伝統文化の継承と新時代の文化の創造  |  | 教育・学習   |         |  |                  |        |   |                    |
| 4 現状               | (1)周知や情報の不足によって、八王子の歴史・文化の価値が多くの市民に理解されていない。<br>(2)伝統文化に限らず、新しい文化の創造と育成に対する関心が希薄である。<br>(3)伝承文化の発表の場所、機会が少ない。                        | 7       | No      | (1)提案事項  | (2)担い手           | (3)優先度 | (4)目標など   | (5)提案実現への課題        |
|                    |  |         | 5 あるべき姿 | (1)車人形・説経節・由木音頭などの伝統文化の維持・発展、カサド国際チェロ・コンクールの発展、八王子祭りへの市外の祭りの招致・共演により、話題性が増している。<br>(2)陣馬山山登り競走・高尾山薬王院僧侶の甲州街道お練り・江戸時代絵巻としての大久保長安行列や鮎継ぎ場面を設定して、多くの市民に参加の機会が得られている。 | 課題解決のための具体的提案    | 1      | <b>機会の創出</b><br>神社の神楽舞台、寺院の本堂広間で車人形や囃子大会などを開催、市内各所で映像展示などをおこない、常時楽しめる機会を増やす。[課題 ] | 市民グループ・神社<br>仏閣関係者 |
| 2                  | <b>伝承の取り組み</b><br>小・中学校で獅子舞を披露し、その歴史を教えながら、クラブ活動として採用する。[課題 ]  | 市教育委員会  |         |  |                  | 優先     | 平成27年度 実施   | 学校、児童・生徒の理解        |
| 6 解決すべき課題          | 市、商工会議所などの諸機関の意識・連携と市民グループ、商店会、町会・自治会の意欲と結束力<br><br>新たな文化の創造に向けた機会の充実および若い世代の参加意欲<br><br>文化の紹介や発表をおこなう場所や機会の充実と、市民センター・学校・駅施設などの活用促進 |         | 3       | <b>童謡の再興</b><br>童謡・夕焼け小焼けの発祥地を前面に押し出して、全国童謡大会の開催を企画し、歌の文化をつくる。[課題 ]  | 市民グループ           | 段階的实施  | 平成28年度 実施   | 市民グループの意欲          |
|                    |  |         | 4       | <b>多摩の再発見</b><br>オリンパスホールで、広く多摩地域を対象にした映画・テレビ・ビデオの連続上映会を開催する。[課題 ]   | 市・映像等関係者         | 段階的实施  | 平成28年度 実施   | 映像等関係者との連携         |
|                    |  |         | 5       | <b>歴史の再考</b><br>大久保長安・横川楳子・中村雨紅など八王子に縁の深い歴史上の人物の足跡に学ぶ機会を充実させる。[課題 ]  | 市民グループ・商工会議所・商店会 | 優先     | 平成28年度 開催   | 学習研究成果の活用          |
|                    |  |         | 6       | <b>市民の参加と文化の創造</b><br>市民文化団体のネットワーク強化により、八王子市民文化祭を充実させ、市民文化の創造を促進する。[課題 ]  | 市民文化団体           | 最優先    | 平成27年度 ネットワーク強化   | 運営資金の確保            |
|                    |  |         | 7       | <b>世代の交流と文化の創造</b><br>市民センターで演劇などの文化教室を開催し、世代間の交流と文化の創造をはかる。[課題 ]  | 市民グループ           | 優先     | 平成28年度 実施   | 各世代の参加             |
|                    |  |         | 8       | <b>機会の支援</b><br>オリンパスホール・いちょうホール・南大沢文化会館を市民活動に安価に貸出し、発表の機会の増加を促す。[課題 ]   | 市                | 最優先    | 平成27年度 実施   | 料金体系の見直し           |
| 8 備考(関連する他分科会の項目等) |  |         |         |  |                  |        |   |                    |

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号

3-15

| 1 提言件名(内容)         |  | 文化交渉の推進と協力関係の構築 |                            | 2 担当分科会  |                     | 教育・学習                         |               | 3 達成時期   |  |
|--------------------|--|-----------------|----------------------------|--|---------------------|-------------------------------|---------------|----------|--|
| 4 現状               | <p>(1)八王子には貴重な文化・歴史・自然が数多くあるが、高尾山以外は全国的な知名度はまだ低い。</p> <p>(2)文化を他の地域に発信し、広く知ってもらうには、姉妹都市・交流都市・大学・企業など既存のネットワークを利用して文化交渉をおこなうことが有効だが、現状ではそれが積極的におこなわれていない。</p> <p>(3)現在おこなわれている文化交渉は、文化のみの交渉でとどまっており、文化以外の分野には交渉を広げられていない。</p> | No              | (1)提案事項                    | (2)担い手   | (3)優先度              | (4)目標など                       | (5)提案実現への課題   |          |  |
|                    |  | 7 課題解決のための具体的提案 | 1                          | <b>交流機会の創出</b><br>市内の大学の他地域のキャンパスで八王子の文化をPRし、市内のキャンパスで多地域の文化のPR機会・場を創設する。[課題 ] | 市・市民・学生             | 優先                            | 平成30年度 年5回の実施 | 大学・学生の協力 |  |
| 2                  | <b>交流機会の創出</b><br>地方出身大学生で地方ごとのサークルを創設。地元で八王子の文化をPR、八王子で地元文化のPR機会・場を創設する。[課題 ]   |                 | 市・市民・学生                    | 優先   | 平成30年度 年5回の実施       | 大学・学生の協力                      |               |          |  |
| 3                  | <b>交流機会の創出</b><br>八王子市外から来た大学生・留学生・在留外国人に八王子の文化や魅力を周知する機会・場を創設する。[課題 ]   |                 | 市・市民・学生・留学生・在留外国人          | 優先   | 平成30年度 年5回の実施       | 大学・学生・留学生・在留外国人の協力            |               |          |  |
| 4                  | <b>企業との連携</b><br>市内所在の企業を通じた文化交渉を促進する。[課題 ]  |                 | 市・市民・企業                    | 段階的実施  | 平成30年度 年3回の実施       | 企業の協力                         |               |          |  |
| 5                  | <b>国内交流</b><br>姉妹都市とのこれまで以上の積極的な文化交渉を促進する。[課題 ]  |                 | 市・市民・姉妹都市(苫小牧市・日光市)        | 最優先  | 平成28年度 年10回の文化交渉の実施 | 姉妹都市との調整                      |               |          |  |
| 6                  | <b>海外交流</b><br>海外友好交流都市とのこれまで以上の積極的な文化交渉を促進する。[課題 ]  |                 | 市・市民・海外友好交流都市(泰安市・高雄市・始興市) | 最優先  | 平成28年度 年8回の文化交渉の実施  | 海外友好都市との調整                    |               |          |  |
| 7                  | <b>交渉の多様化</b><br>文化の交渉を通じ、災害支援やスポーツ交渉など、文化以外の分野での新たな協力関係を構築する。[課題 ]  |                 | 市・市民・姉妹都市・海外友好交流都市         | 最優先  | 平成27年度までに協力関係の構築    | 姉妹都市・海外友好都市との連携、新たな分野の協力関係の構築 |               |          |  |
| 5 あるべき姿            | <p>(1)文化交渉を通じて八王子の文化を積極的に他の地域に発信し、全国的な知名度を高めていく努力が継続的に実施され、市内でも他の地域から来た学生へのPRがされている。</p> <p>(2)文化交渉をきっかけとして文化以外の防災・産業・学問・スポーツなどの面での交渉が積極的におこなわれている。</p> <p>(3)文化交渉を柱としつつ、防災を含めより多面的な都市間連携のネットワークが形成されている。</p>                |                 |                            |  |                     |                               |               |          |  |
| 6 解決すべき課題          | <p>市民の文化活動への関心を高め、学生や留学生などの若年層を活動に取り込むこと。</p> <p>遠隔地の都市との文化交渉を深めることにより、大規模な災害時には相互に支援し合える関係の形成</p>   |                 |                            |  |                     |                               |               |          |  |
| 8 備考(関連する他分科会の項目等) |  | まちづくり分科会4-12    |                            |  |                     |                               |               |          |  |

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号 3-16

|                    |   |                    |  |   |                  |        |                            |                     |        |  |
|--------------------|---|--------------------|--|---|------------------|--------|----------------------------|---------------------|--------|--|
| 1 提言件名(内容)         |   | 新しい市民文化と芸術を創造するづくり |  | 2 担当分科会   |                  |        | 教育・学習                      |                     | 3 達成時期 |  |
| 4 現状               | (1)八王子の文化の保存・継承については、その担い手として八王子市郷土資料館のガイドボランティアなどが育っているが、不十分である。<br>(2)新たな八王子の文化を創造しようとする動きはさほど活発なものではなく、流れを生み出すしくみが少ない。<br>(3)文化・芸術の創造に限らず、あらゆる市内の活動の担い手として、30代から50代の働き盛りの世代の関与が薄く、重要な機動力を確保できていない。 | 7                  | No   | (1)提案事項   | (2)担い手           | (3)優先度 | (4)目標など                    | (5)提案実現への課題         |        |  |
|                    |   |                    | 1  | <b>文化・芸術の創造を推進できる人材の育成</b><br>文化・芸術コーディネーター育成講座を開催し、人材育成に努めるとともに、コーディネーターによる活動を促進する。[課題 ]   | 市・研修機関・市民活動家     | 最優先    | 平成27年度 開始<br>2年ごとに実施       | 講座内容の検討             |        |  |
|                    |   |                    | 2  | <b>講座開設</b><br>市政全般を簡素に、かつ分かりやすく説明できるパンフレットを活用した市民向け行政講座の開講により、文化・芸術などの促進をはかる。[課題 ]         | 市・市民活動家          | 段階的实施  | 平成29年度 開始<br>毎年実施          | 講座内容の検討<br>市民の関心    |        |  |
|                    |   |                    | 3  | <b>働き盛り世代の地域回帰の促進</b><br>市外に勤務する市民を引き込む企画立案とその推進をはかる。また、市内企業CSRコンソーシアムを結成し、企業市民の参加を促す。[課題 ] | 市・商工会議所・市民活動家・企業 | 最優先    | 平成27年度 商工会議所に登録する企業の数以上の確保 | 市内企業の参加協力と、モデル企業の紹介 |        |  |
| 5 あるべき姿            | (1)八王子の文化・芸術の創造を担う人材が多数存在し、卓越した市民文化が定着している。<br>(2)卓越した市民文化が定着することにより、全国から観光を兼ねた視察者が多数、八王子を訪れている。  | 課題解決のための具体的提案      | 4  | <b>市民を巻き込んだ100周年記念行事</b><br>新しい市民文化の創造に向け、100周年記念行事の企画検討委員を募集し、大規模行事の企画・実行を担える人材育成を促す。[課題 ] | 市・企業・市民          | 優先     | 平成25年度 開始                  | 市民と企業の参加            |        |  |
| 6 解決すべき課題          |   |                    | 文化・芸術の創造を担える人材の育成<br>30代から50代の働き盛りの多数の参加<br>市制100周年記念行事の活用 |   |                  |        |                            |                     |        |  |
| 8 備考(関連する他分科会の項目等) |   |                    |  |   |                  |        |                            |                     |        |  |

